

国際感覚持つ医療を

木沢記念病院 移転新築へ安全祈願

木沢記念病院(美濃加茂市古井町)を運営する社会医療法人厚生会が現病院を移転し新築する「中部国際医療センター(仮称)―(同市蜂屋町)の安全祈願

祭が五日、現地で開催された。

新病院が建つのは、現病院の北二キロの市中心部に近い高台の十二万三千平方メートル。敷地内には病院以外に

市保健センターやフィットネス施設なども入る予定だ。患者用の駐車場は二倍以上の七百台分を確保する。

病棟の建物は地上十階建ての延べ床面積五万二千平方メートルで、病床数は現在より五十床多い五百二床、手術室も四室多い十一室。最先端の治療装置導入などで力

を入れてきたがん診療を継続し、屋上にドクターヘリ用のポートを備えるなど救急医療体制を強化。中部国際空港からのアクセスも良いため、より広範囲からの外国人患者の受け入れにも取り組んでいく考えだ。総工費は三百億円。

移転新築計画は現病院が手狭になり、十年ほど前から構想を練っていた。造成工事が今月始まることから開かれた安全祈願祭には、厚生会や工事関係者が出席。厚生会の山田実紘理事長は「中部一帯で最も内容が濃く、国際的な感覚を持った高度医療ができるように命名した。まずは良い医療をするためのハードをしっかりつくってほしい」とあいさつした。

建物工事は十二月に始まり、二〇二二年九月に完成。同年十二月―二三年一月に開院する予定。移転後の現病院は、術後の機能回復のリハビリなどをする回復期病棟として、運営を継続する。(織田龍穂)



①新病院のイメージ図②厚生会提供 ③玉串をささげ、工事の安全を祈願する山田理事長④美濃加茂市蜂屋町で